

新型コロナ「医療逼迫注意レベル」 静岡県、5類移行後初

7/29 静岡新聞

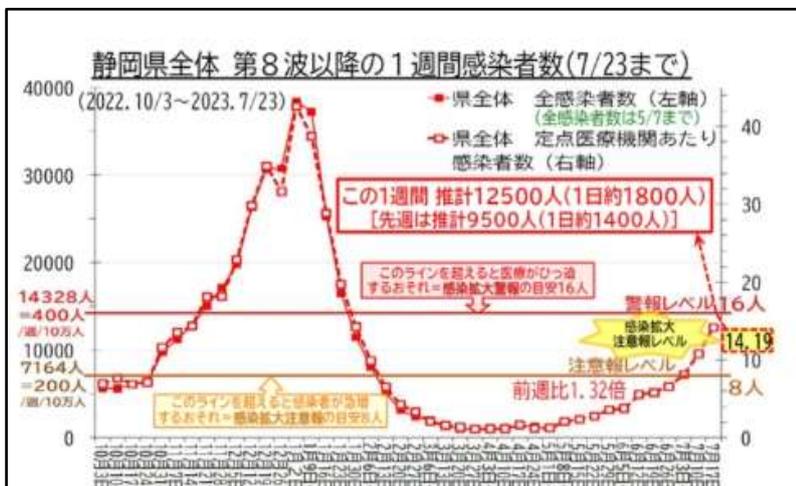


<https://news.yahoo.co.jp/articles/92431ebb7a2091c279fdd26a75faeae74f5118a2>

静岡県は28日、新型コロナウイルスの医療状況評価レベルを通常レベルから「医療逼迫（ひっぱく）注意レベル」に引き上げた。評価の基になる5指標のうち4指標で目安値を超え、県の専門家会議の意見も踏まえて判断した。県は「地域や医療機関によっては医療の逼迫が始まっている」とみている。

レベルの引き上げは、5月に新型コロナの感染症法上の位置付けが5類に移行されて以降初めて。県によると、17～23日の定点医療機関1カ所あたりの患者数は14・19人で、前週比1・32倍。1日あたりの感染者数は1800人と推計している。

定点あたりの患者数は地域別で、東部16・44人、中部13・83人、西部12・13人。保健所別では静岡市12・32人、中部16・06人でいずれも感染拡大警報レベルを超え、ほかの保健所管内は注意報レベルで推移している。



17～23日の推計感染者数は約1万2500人。第6波時には1週間の感染者数のピークが1万2148人だったことから、感染症管理センターの後藤幹生センター長は「第9波と言わざるを得ない」との認識を示し、体調に違和感を抱いた際のマスクの着用や帰省・旅行の延期などの対策を呼びかけた。